

日本語教育学



日本語教育学(大学院)の教員と専門領域

玉岡賀津雄 教授

心理言語学・言語習得・言語の認知処理

杉村 泰 教授

現代日本語学(教育文法)・日本語教育

林 誠 准教授

会話分析・相互行為言語学

鷺見幸美 准教授

現代日本語学(意味論)・日本語教育

志波彩子 准教授

日本語文法(記述研究・対照研究・通時的研究)・日本語教育

日本語教育学分野で目指すのは「研究も教育もできる日本語教育人材の育成」です。研究能力はもちろんのこと日本語教授能力を高めることも重視しています。その一つが、日本語教育実習です。模擬授業の実践、外部日本語教育機関での実践を通し、教師としての課題や問題意識を明確にします。本分野に所属する学生の修士論文・博士論文の研究については、ハイレベルな学術誌に掲載されることを目標として、全教員が各専門分野の見地から厳密かつ熱意ある指導を行っています。日々の指導の他に、毎月一回分野研究会を行い、分野全体で修士論文や博士論文の執筆をサポートする体制をとっています。本分野の分野研究会は学生主体で運営されており、教員だけでなく学生同士が自由に活発な議論を行っている点に特徴があります。この他、日本語教育学分野主催で様々な講演会やセミナー、シンポジウムを行ったり、国内外で活躍中の修了生や研究者と密接な連携を保ち、日本語・日本語教育に関するネットワークを広げたりするなど、活発な研究活動を行っています。

修了生の多くは日本、韓国、中国、台湾、ベトナム、タイ、マレーシア、トルコなど国内外の日本語教育・研究機関に勤務しています。大学のほか中学校や高校で日本語教育の知識を生かして働いている人もいます。また、留学生の場合、高度な日本語運用能力を生かして、日本企業や外国企業の日本担当部門で活躍している人もいます。

広くて深い英語教育学の専門家に

英語教育学



英語教育学(大学院)の教員と専門領域

尾関修治 教授

英語教育学・教育工学

木下 徹 教授

英語教育学、応用言語学、言語評価論

杉浦正利 教授

第二言語習得論、言語教育学

エドワード ヘイグ 教授

言語学、批判的言説分析・談話分析

山下淳子 教授

応用言語学、英語教育学、第二言語の習得・読解・認知処理

三輪晃司 准教授

心理言語学、バイリンガリズム、形態論

村尾玲美 准教授

英語教育学・第二言語習得論

情報と社会のグローバル化の進展とともに、英語の事実上の世界共通語としての重要性がますます進む今日の状況において、英語教育学の分野では、この領域の基礎である、英語を中心とする外国語教育学、応用言語学をはじめとして、関連諸科学の知見、成果、方法論等を総合的、有機的に学ぶこと、ならびに、自らの問題意識に端を発する研究を実践することを通じて、英語教育学の高度な専門知識と研究力を有する研究者・教育実践者を育成することを目指しています。その中で、スタッフの研究領域の視点からは、形態論とバイリンガリズムをコアとする心理言語学、マルチメディアやインターネット対応の教材の開発を含み、実験の様々なノウハウ取得にもつながる教育工学・言語教育工学、種々の外国語教授法および外国語教育の中で依然大きな比重を占める語彙と読解に関する問題と、一層重要性を増している音声面、さらに言語能力の測定にも注目する第2言語習得論、テキストの批判的言説分析・談話分析を意識した言語学、その他、脳科学や数量的分析手法の英語教育学領域への応用と学際的研究等に力を入れています。また、この分野の特徴の一環として、中学・高校の外国語(英語)の専修免許の取得につながる授業が多いことも挙げられます。

大学院生からのメッセージ

アカデミックな世界へ



鈴木彩花

岩手大学人文社会科学部

2013年度卒

西洋史学専門 博士課程後期課程1年

私が主として取り組んでいる研究は、古代ギリシャの都市アテナイにおける宗教の政治・社会への関わりです。熱意と好奇心を武器に史料を読み、先生から時に手厳しいアドバイスを受けながら、遠い遙かな時代を生きた人々が挙行していた祭儀、創りだした神話から、歴史を学んでいます。

院へ進学しようと思ったのは学部3年の頃です。ギリシャ古代史についてもっと学びたいというぼんやりとした熱意からでした。進学当初は、慣れない環境に戸惑ったほか、知識不足に悩まされました。とりわけ自分のあまりの知識不足、未熟さにショックを受けて落ち込むこともありましたが、それ以上に今までよりアカデミックな環境で知識を得ることに大きな喜びを感じてい

ました。最新の知識を得て、議論し合い、自分の見識を深め、研究をすすめることは、自分の世界がどんどん開けていくようでした。

好きな言葉のひとつにこんなものがあります。「科学者は実益があるからこそ自然を研究するのではなく、それが喜びをもたらすからこそ研究するのである。また、なぜ自然が喜びをもたらすかという、それが美しいからである」。この言葉は、理系や文系といった垣根なく、全ての研究に携わる人に言えると思います。もし、自分の琴線に触れるような、美しいと思える事柄に出会った時、何ものにも代えがたい知的興奮を味わった時、熱意と好奇心の赴くままに、大学院の扉を叩いてみることをおすすめします。

文学を楽しむ



佐野馨

神戸市外国語大学外国語学部

2011年度卒

西洋古典学専門

博士課程後期課程3年

私はホメロスの『イリアス』という作品について、人々が物語や登場人物のどこに魅力を感じ、どう楽しんでいたのかを研究しています。それは現代にまで通じるような人間の本质や不変の真理を導き出すものではありません。もちろん突き詰めていけばそれらに辿り着くこともできるのかもしれませんが、そこまで追求しなければ価値がないというものではないはずです。

西洋の古典作品は様々な分野において計り知れない価値を持つ資料であることは間違いありません。しかし一方で、それが当時の人々にとって、そして現代の私たちにとっても娯楽であるというのもまた事実なのです。ならば、それを最大限味わう方法を突き詰めることも作品との向き合い方として正しいはず。そして作品のど

こに惹かれるかは人によって違います。逆に言えば、より多くの魅力を明らかにすることで、より多くの人に作品に触れてもらえ、おもしろさを共有できるようになるでしょう。それがなんの役に立つかと言われるとなんとも言い難いですが、そこに意義があるのかと言われるれば間違いなくあります。自ら楽しみ、他者を楽しませること自体に価値があるのです。

文学の研究とは、そうした作品の魅力をいかに説得的に発信するかを考える作業とも言えるでしょう。もし、ある作品の魅力をどうしても伝えたいという強い思いがあるのなら、それは十分に大学院で研究する理由となるのではないのでしょうか。

人は歩く



薛婧宇

山東科技大学日本語学部

2016年度卒

日本語教育学分野

博士課程前期課程1年

青空に映えて桜が満開となっている四月に、私は名古屋大学人文学研究科に入学しました。言葉は際限がなく、人と人の交流を支えるとても不思議なものだと思います。日本語が好きで、より高い研究能力や教育能力を備えたいと思って、日本語教育学分野を選びました。

日本語教育学分野では、科学的思考・実証的方法論に立脚して、日本語の文法と教育方法論、心理言語学、言語比較、第二言語習得などを教えています。授業で研究方法や基礎知識を身に付けながら、ゼミ・分野研究会などで発表や議論をして自分の考えを試すことができます。専門知識の勉強だけでなく、ゼミ旅行、文化体験、合宿、海外への教育実習などを楽しみながら学べます。この留学で日本語に対す

る理解を一層深めて、日本との交流に力をつけたいと思います。

研究は棘の道で、辛いこともあるけど、名古屋大学で出会った友達と一緒に頑張り、お互いに助け合い、旅行や合宿に行ったりして、きっと忘れがたい思い出ができると思います。研究室も家族のような暖かい雰囲気、毎日充実した生活を送っています。

「現状にとどまらず、満足せず、人は歩く」という、入学式でもらった言葉があります。研究者はみんな、この世界の些細なことに対しても常に好奇心と情熱を持って、満足せずに探求していく人だと思っています。もし、あなたも使い道をまだ知らない情熱を持っていたら、大学院、日本語教育の扉を叩いてみませんか。